なみなみ通信

福岡県水産海洋技術センター情報誌

なみなみ通信は、センターと各研究所からの情報を、漁業者や県民の方にお知らせする情報誌です。

VOL.63

発行 / 平成 27 年 6 月

13 年ぶりの豊作　福岡のり

調査情報
- 海況情報 …… 2
- 福岡のり、13 年ぶりに 170 億円を超える豊作 …… 2
- 26 年度　カキ養殖生産結果 …… 3
- 26 年度　本県主要魚種の資源評価について …… 4

研究情報
- 栄養強化によるエツの大型種苗生産技術の開発 …… 4

なみなみニュース
- 体験イベントで漁業への理解を促進 …… 5
- 協働で漁場環境を保全 …… 6
- 福岡市漁協が全国豊かな海づくり大会で水産庁長官賞を受賞 …… 6

研究員紹介
- 豊前海研究所　技師　野副　滉 …… 7

普及だより
- 有明海区研究連合会　猿渡修さんが「JF 全国女性連・JF 全国漁青連会長賞」を受賞 …… 7

人事異動 …… 8

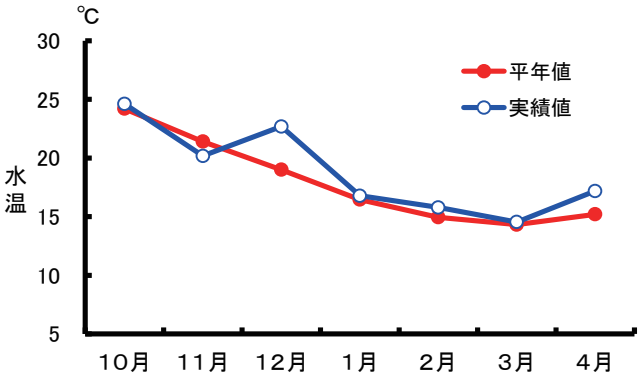
調査情報

海況情報

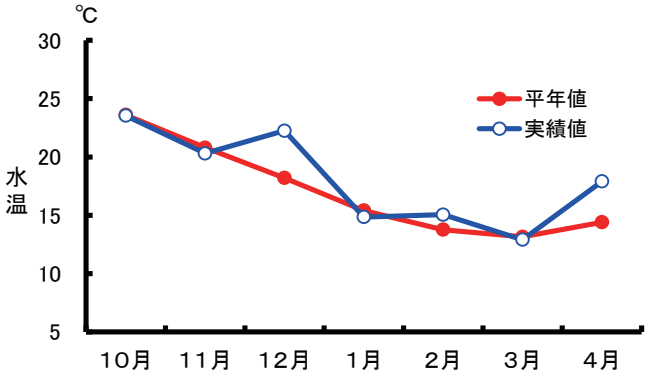
10～4月の表層水温は、筑前海では、沖合域は10、1、3月は平年並み、11月がやや低め、12月が甚だ高め、2月がやや高め、4月がかなり高めでした。沿岸域では、10、11、1、3月は平年並み、12、4月は甚だ高め、2月がやや高めでした。

有明海では、12月がやや低めでしたが、それ以外の期間は平年並みでした。

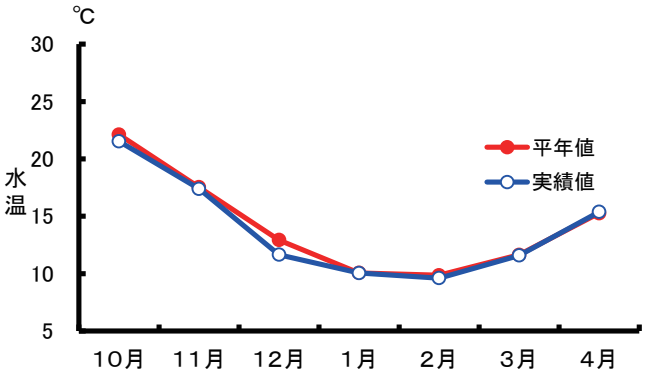
豊前海では、10、1、3月は平年並み、11、2月はやや高め、12月がやや低め、4月がかなり高めでした。



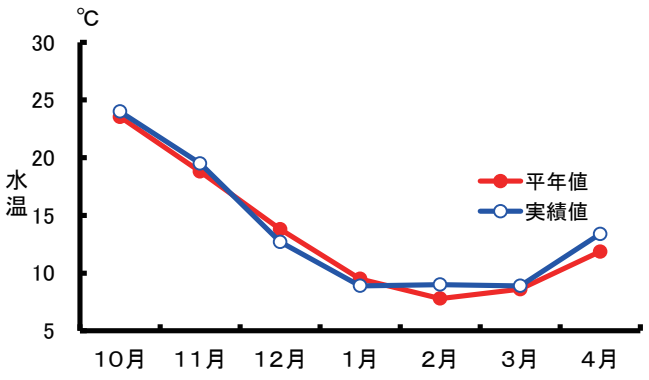
筑前海沖合域の表層水温



筑前海沿岸域の表層水温



有明海の表層水温



豊前海の表層水温

福岡のり、13年ぶりに170億円を超える豊作

今期の有明海におけるノリ養殖は、4月8日に終了しました。最終的な販金売額は171億円となり、13年ぶりの豊作となりました。

さて、今期を振り返ると、台風の影響で種付けの開始が延期され小潮回りで行われるなど、気をもむ中でのスタートとなりましたが、その後、海況も順調に推移し、良質なノリが収穫されました。漁期後半に栄養塩が減少したため、ノリの色落ちが発生しましたが、最終的に平年を上回る収穫量となりました。

26年度の生産は、枚数が14.3億枚（平年比113%）、金額が171億円（平年比136%）となっています。

初回海苔入札会
（左が有明海漁連西田会長、右が小川知事）

（有明海研究所）

26 年度　有明海養殖ノリの生産結果

	生産枚数(億枚)	生産金額(億円)	平均単価(円/枚)
26年度	14.3	170.6	11.92
過去5年平均	12.7	125.5	9.89

26 年度　カキ養殖生産結果

本県の養殖カキは、豊前海区と、筑前海区のうち糸島地区と唐泊地区が主な産地となっています。26年度の各海区の生産状況は以下のとおりです。

【豊前海区】

今漁期は、イカダに垂下する種ガキの付着数が少ない状況で養殖が始まりました。一方、豊前海研究所がクロダイによる食害対策として開発した「束ね垂下」を取り入れる漁業者も増え、食害はほとんど確認されませんでした。

夏期には、ホヤ等が多く付着したため成長がやや遅れました。漁期後半にはカキの身入りが良くなったものの、収穫量は1,070トン(平年比70%）と平年を下回りました。

食害試験の結果（豊前海区）
（左：束ね垂下、右：通常垂下）

【筑前海区】

糸島地区は、各漁場とも順調に成長し、豊漁であった昨年を上回る収穫となりました。一方、唐泊地区は、平年並みでした。また、志賀島をはじめ、新たにカキ養殖に着業した地区も生産が軌道に乗りつつあります。この結果、海区全体では過去最高の530トン（平年比174%）となりました。

また、冬の観光スポットとして定着したカキ小屋には、期間中約40万人もの方が来客され、大変な賑わいをみせました。最近は外国からのお客様も増加しており、本県におけるインバウンド（海外からの観光客）の受け皿としても期待されています。

カキ小屋に訪れたタイからのお客様（筑前海区）

（豊前海研究所、研究部）

26年度　本県主要魚種の資源評価について

水産資源の管理を効果的に実施するためには、対象となる資源の現状を知る必要があります。このため、国や水産総合研究センター、各県の連携のもと、重要魚種の水揚状況や漁獲物のサイズなどを調査し資源評価を行っています。26年度の結果がまとまりましたので、本県の主要魚種について紹介します。

ブリとサワラ（東シナ海系群）は、高位水準で推移しており、本県の好漁を裏付ける結果となっています。

マアジは中位ですが、沿岸で漁場が形成されておらず、本県では水揚げに繋がっていません。一方、マサバは低位で推移しており、本県のみならず、近隣県でも漁獲量が減少しています。

マダイは、中位から低位に下がっており、今後の資源動向を注視していきます。

低位の魚種については、小型魚の保護、禁漁期の設定など資源管理の取組が重要です。トラフグでは小型魚を保護するため、県内の浮きはえ縄漁業者が１月以降に再放流する小型魚のサイズを自主的に30cm以下から35cm以下に強化するなど、資源管理の取組が進展しています。

魚体測定調査

本県主要魚種の資源評価結果

魚種	系群	資源水準	
		25年度	26年度
マアジ	対馬暖流系群	中位	中位
マサバ	対馬暖流系群	低位	低位
ブリ		高位	高位
マダイ	日本海西部・東シナ海系群	中位	低位
サワラ	東シナ海系群	高位	高位
	瀬戸内海系群	低位	低位
ヒラメ	日本海西部・東シナ海系群	中位	中位
トラフグ	日本海・東シナ海・瀬戸内海系群	低位	低位
ケンサキイカ	日本海・東シナ海系群	低位	低位

（研究部）

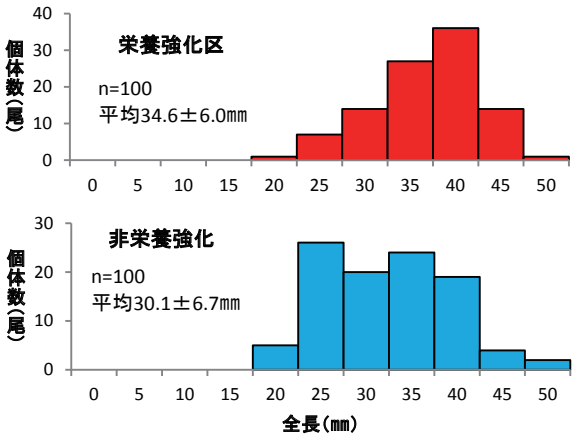
研究情報

栄養強化によるエツの大型種苗生産技術の開発

エツは筑後川及び有明海湾奥部に生息する地域特産魚で、５～７月に筑後川に遡上したものが漁獲されています。この時期にはエツを賞味できる屋形船が賑わうなど重要な地域資源となっていますが、漁獲量は昭和50年代の100トン前後から、近年では20トン前後に減少しています。そのような背景から下筑後川漁協ではエツの種苗生産、放流による資源増殖に取り組んでいます。しかし、中間育成中に斃死が増加し、体が変形する、活力が低いなどの問題点がありました。これらの原因を栄養不足と考え、餌料の栄養強化を行い、その効果を検証しました。

エツの種苗生産は、孵化後５日からシオミズツボワムシを給餌し、10日頃からアルテミアに切り替えます。高度不飽和脂肪酸の栄養強化を行ったアルテミアを給餌した栄養強化区と栄養強化を行っていないアルテミアを給餌した非栄養強化区を設定し、40日間飼育しました。孵化40日後の生残率は非栄養強化区が26.7％であったのに対し、栄養強化区が39.1％でした。また、平均全長は非栄養強化区が30.1㎜であったのに対し、栄養強化区が34.6㎜でした。生残、成長とも向上が認められ、餌料の栄養強化の効果が実証されました。

今回開発した餌料の栄養強化手法を、下筑後川漁協に導入した結果、昨年度の放流数は、過去最高の49万尾（うち中間育成5万4千尾、ふ化仔魚放流43万6千尾）を放流することができました。今後も中間育成技術の改良を進め、大型種苗の増産を目指します。



孵化 40 日後の平均全長

中間育成施設（下筑後漁協）

エツの稚魚（40 日齢、全長 40 ㎜）

地元の児童によるエツ稚魚の放流

（内水面研究所）

なみなみニュース

体験イベントで漁業への理解を促進

県では、県民の皆さんに農林水産業をもっと身近に感じてもらおうと、体験イベントを開催しています。水産関係では、地引網やカキ出荷作業などを行いました。

○地引網を体験

８月31日、糸島市深江海岸で開催した地引網体験には、たくさんの子どもたちに参加していただきました。

子どもたちは、引き揚げる地引網の重さに少々疲れ気味でしたが、魚が揚がってくると一気に元気を取り戻し、興味津々。センターの職員が説明を加えながら、獲れた魚を紹介しました。おなじみのマアジやマダイをはじめ、コショウダイ、エソ、キントキダイ、サカタザメなど珍しい魚もたくさん獲れました。獲れた魚をバーベキューで味わった後は、アジやスズキのさばき方教室を開催しました。今回の体験で、福岡の漁業や水産物に対する皆さんの理解が深まったようでした。

地引網を引く参加者

○カキの出荷作業を体験　（豊前）

１月17日、行橋市蓑島で開催した豊前海一粒かきの出荷作業体験には、カキが大好きという皆さんが集まりました。

収穫したばかりのカキには、フジツボやホヤなどが付着しています。参加者の皆さんには、これらを落としてきれいなカキに仕上げる作業を体験していただきました。もちろん、体験後は、自ら仕上げたカキをその場で焼きカキにして味わっていただきました。自分で仕上げたカキの味は格別だったようで、たくさんの笑顔が広がっていました。

カキをきれいに仕上げる参加者

協働で漁場環境を保全

各浜では、藻場保全や海浜清掃など、漁業者と県民との協働による漁場保全の取組が進んでいます。

○地元ダイバーと連携して藻場を保全

現在、筑前海区では藻場を守るため、増えすぎたウニの除去等の藻場保全活動を行っています。

11 月 6 日には、志賀島の漁業者と地元のダイビングセンターが協働で、ムラサキウニの除去活動を行い、合計約 5,000 個を除去することができました。普段潜っている身近な海を守りたい気持ちは、漁業者もダイバーも同じです。

ウニ除去作業中の地元ダイバー

○植林活動に漁業者が参加

２月 27 日には、糸島市で植林活動があり、集まった市民に混じって、糸島漁協からも多くの漁業者が参加しました。参加者全員で、イロハモミジやヤマザクラなど、広葉樹の苗を約 900 本植樹しました。

活動終了後には、参加した子どもたちに、漁協から糸島かきのプレゼントがあるなど、山と海の繋がりを見つめる良い機会となりました。

植林活動中の漁業者

福岡市漁協が全国豊かな海づくり大会で水産庁長官賞を受賞

11 月に奈良県で開催された第 34 回全国豊かな海づくり大会において、豊かな海づくりに功績があったとして、福岡市漁協が水産庁長官賞を受賞しました。

福岡市漁協では、長年にわたり、漁場一斉清掃や海底耕耘、植林活動など、様々な環境保全活動に取り組んでおり、こうした活動が評価され、今回の受賞となりました。

さて、２年後の平成 29 年に行われる第 37 回全国豊かな海づくり大会の本県開催が正式に決定しました。

本県は、栽培漁業の発祥の地でもあり、これまで豊かな海づくりに官民一体となって取り組んできました。来る大会では、将来にわたり豊かな海づくりに取り組んでいくことを全国に発信していきたいと考えています。

底びき網を使用した漁場清掃作業

研究員紹介

豊前海研究所　技師　野副　滉

はじめまして。新規採用で豊前海研究所に配属された野副滉（のぞえあきら）です。出身は新宮町で、今春、下関の水産大学校を卒業しました。

大学時代は、定置網の漁獲物調査などをしていましたが、研究所ではアサリの種苗生産や漁場環境調査など、これまでやったことのない新たな仕事を担当しています。また、先輩方の色々な調査に同行することも多く、配属以来、目の回るような毎日を過ごしています。仕事では、毎日学ぶことがたくさんあり、とても充実しています。先輩方が優しく、熱心に指導していただけるので、少しずつではありますが成長できているのではないかと思っています。

趣味は熱帯魚鑑賞、バスケットボール、釣り、ギターなどです。また、中学、大学ではバスケットボールを、高校では弓道をしており、スポーツなど、体を動かす事が好きです。

はやく一人前になって、漁業者の皆さんのお役に立てるようになりたいです。これから一生懸命頑張りますので、よろしくお願いします。

普及だより

有明海区研究連合会　猿渡修さんが「JF 全国女性連・JF 全国漁青連会長賞」を受賞

平成 27 年２月に東京都で第 20 回全国青年・女性漁業者交流大会（JF 全漁連主催）が開催されました。福岡県からは、有明海区研究連合会の猿渡修さんが、二枚貝資源増加への取組を発表し、「JF 全国女性連・JF 全国漁青連会長賞」を受賞しました。

発表では、猿渡さんらが九州北部豪雨で減少した二枚貝資源を回復させるために、サルボウの天然採苗の規模拡大に取り組んだ結果、その資源量が安定したことを報告しました。この取組が高く評価され、今回の受賞となりました。

「JF 全国女性連・JF 全国漁青連会長賞」を受賞した猿渡さん（左端）

人事異動

（平成27年4月22日付け）

○水産海洋技術センター

新　所　属		職　名	氏　名	旧　所　属
		所　長	石田　祐幸	水産振興課
企画管理部		部　長	大村　浩一	有明海研究所
	企画情報課	課　長	深川　敦平	水産振興課
		研究員	篠原　満寿美	漁業管理課
		主任技師	廣瀬　道宣	有明海研究所
研究部	漁業経営課	技術主査	寺井　千尋	豊前海研究所
	資源環境課（げんかい）	主任技師	堂本　博司	再任用（有明海研究所）
		主任技師	馬渡　拓一	漁業管理課
	資源環境課（つくし）	船長	小林　喜利	水産海洋技術センター（げんかい）
		技術主査	池内　清治	漁業管理課
	浅海増殖課	研究員	中本　崇	水産振興課
	浅海増殖課	研究員	片山　幸恵	水産振興課
	応用技術課	研究員	江﨑　恭志	水産振興課

○有明海研究所

新　所　属		職　名	氏　名	旧　所　属
		所　長	岩渕　光伸	水産海洋技術センター
	のり養殖課	課　長	宮本　博和	有明海研究所（資源増殖課長）
		事務主査	野田　孝一	再任用（南筑後県土整備事務所）
		技師	井手　浩美	新規採用
		技能員	小山田　清子	再任用
	のり養殖課（ありあけ）	船長	田畑　正和	漁業管理課
		技術主査	古賀　修	再任用（漁業管理課）
	資源増殖課	課　長	濵﨑　稔洋	内水面研究所
		専門研究員	篠原　直哉	水産海洋技術センター

○豊前海研究所

新　所　属		職　名	氏　名	旧　所　属
	漁業資源課	研究員	佐藤　利幸	水産海洋技術センター
	浅海増殖課	課　長	中川　清	水産海洋技術センター
		技　師	野副　滉	新規採用

○内水面研究所

新　所　属		職　名	氏　名	旧　所　属
		所　長	福永　剛	水産振興課
		次　長	伊藤　輝昭	豊前海研究所

△転出

新　所　属		職　名	氏　名	旧　所　属
農林水産部水産局	漁業管理課	海づくり大会推進室企画主幹	秋元　聡	有明海研究所
		技術主査	内藤　剛	水産海洋技術センター
	漁業管理課（しんぶう）	技術主査	松下　誠一	水産海洋技術センター
	水産振興課	課　長	太刀山　透	内水面研究所
		技術主査	佐藤　博之	水産海洋技術センター
		主任技師	中岡　歩	水産海洋技術センター
		主任技師	兒玉　昂幸	有明海研究所
		主任技師	山田　京平	豊前海研究所
	園芸振興課	技術主査	後川　龍男	水産海洋技術センター
総務部	大牟田県税事務所	事務主査	江口　洋泉	有明海研究所

□退職（平成27年3月31日付け）

旧　所　属	職　名	氏　名
水産海洋技術センター	所長	西川　仁
	つくし船長	伊藤　日出登
有明海研究所	企画主査	堂本　博司
	主任技能員	小山田　清子

＜編集発行＞福岡県水産海洋技術センター企画管理部企画情報課
〒819－0165　福岡市西区今津1141番地1
TEL　092－806－5251　FAX　092－806－5223
センターホームページ　http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/
携帯電話対応　http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/mobile/